

恵 山

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2019年7月～2020年6月の発表履歴

変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------	----------------------------

○2019年7月～2020年6月の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～8）

監視カメラによる観測では、Y火口の噴気の高さは火口縁上概ね100m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

2019年9月17日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）において、X火口及びY火口周辺の噴気の状況に特段の変化は認められませんでした。また、赤外熱映像装置による観測においても地熱域の状況に特段の変化はありませんでした。

2019年10月29～31日に実施した現地調査では、X火口及びY火口の噴気や火口の状況に変化はなく、赤外熱映像装置による観測でも地表面温度分布の状況に変化は認められませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図1-②～③）

2019年10月18～19日にかけて、恵山直下を震源とする地震が一時的に増加し、最大規模の地震（マグニチュード2.6、暫定値）により函館市で震度1を観測しましたが、この地震の前後で火山活動に特段の変化は認められませんでした。その他の期間については、火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図1-④、図9）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

GNSS繰り返し観測では、引き続き恵山ドームを含む基線で伸びの変化が観測されていますが、火山活動との関連の有無は不明です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院のデータを利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情復、第958号）。

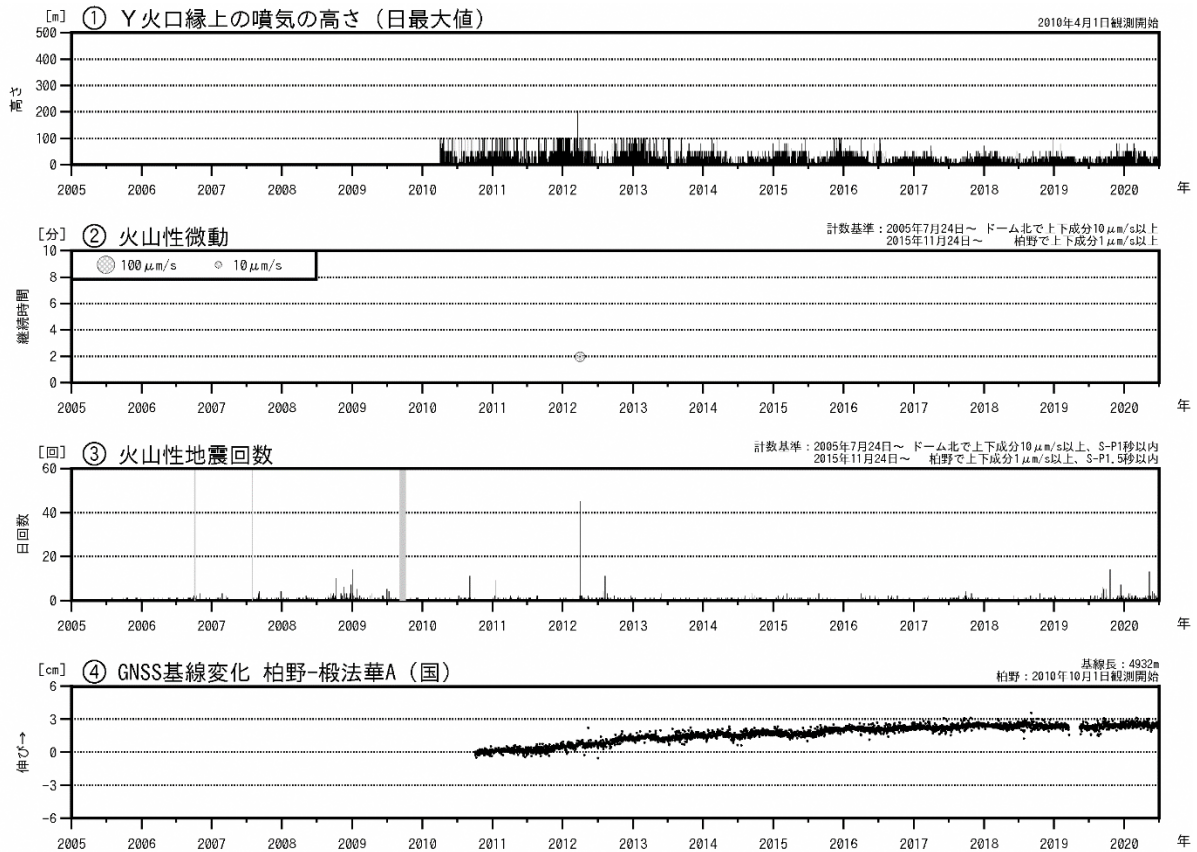


図1 恵山 火山活動経過図（2005年7月～2020年6月）

- ③の灰色の期間は機器障害のため欠測しています。
- ④のGNSS基線は右配置図に対応しています。
- ④のGNSS基線の空白部分は欠測を示します。
- ④のGNSS基線は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。



図2 恵山 西南西側から見た山頂部の状況（2020年6月17日、高岱監視カメラによる）

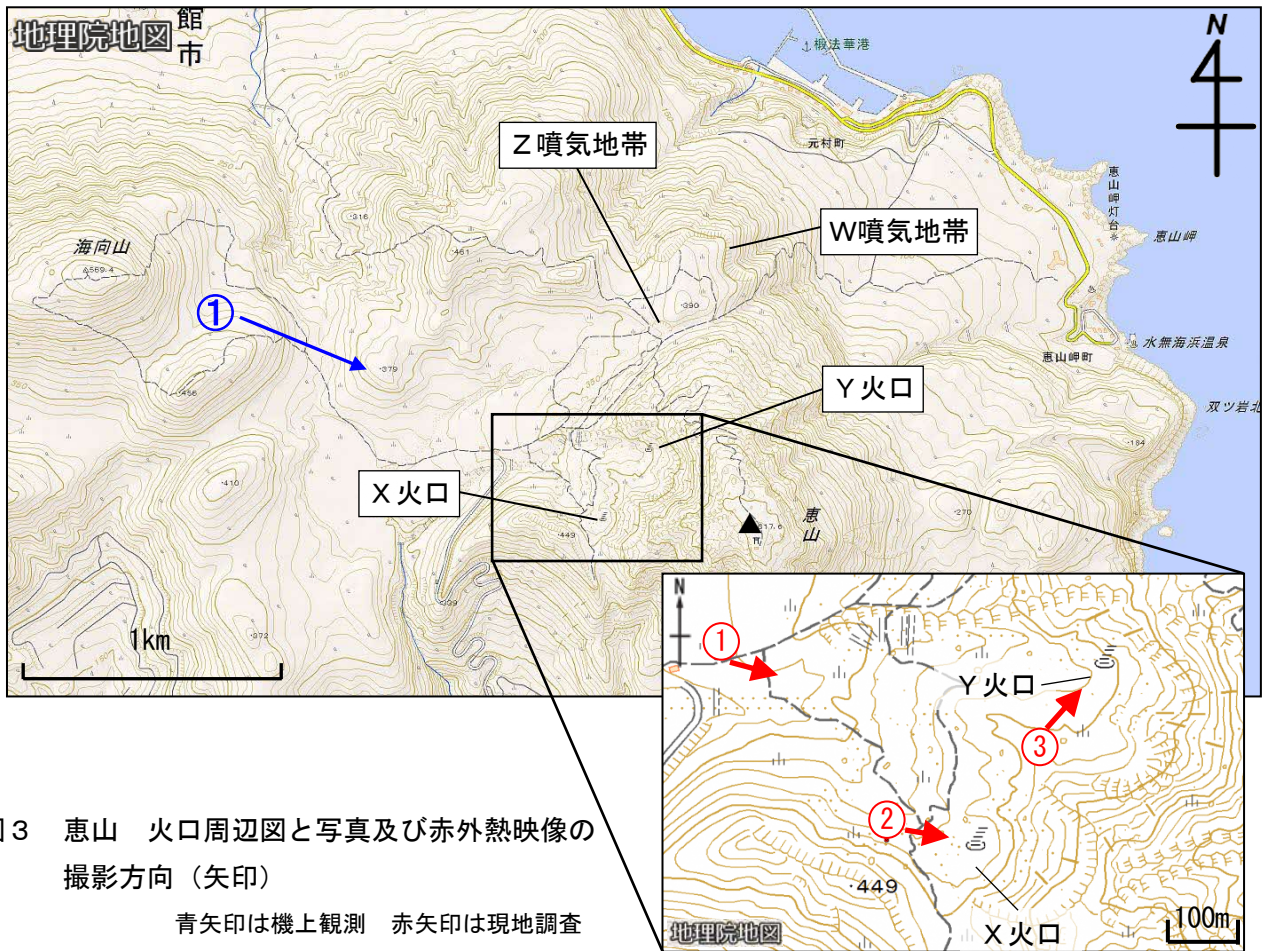


図3 恵山 火口周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）
青矢印は機上観測 赤矢印は現地調査



図4 恵山 火口周辺の状況
北西側上空（図3の青矢印①）から撮影

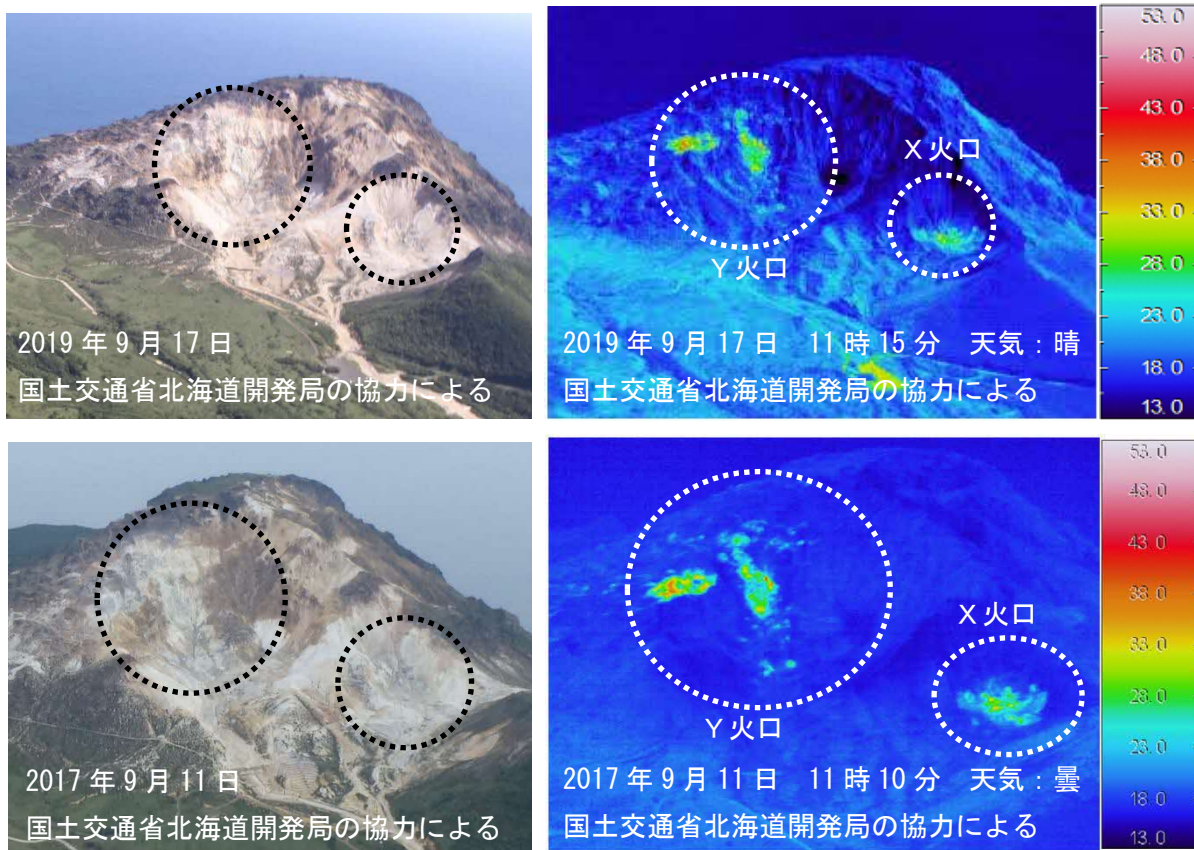


図5 恵山 赤外熱映像装置によるX Y火口の地表面温度分布
北西側上空（図3の青矢印①）から撮影
・噴気や地表面温度分布に特段の変化は認められませんでした。



図6 恵山 山頂ドーム全景 西北西側（図3の赤矢印①）から撮影

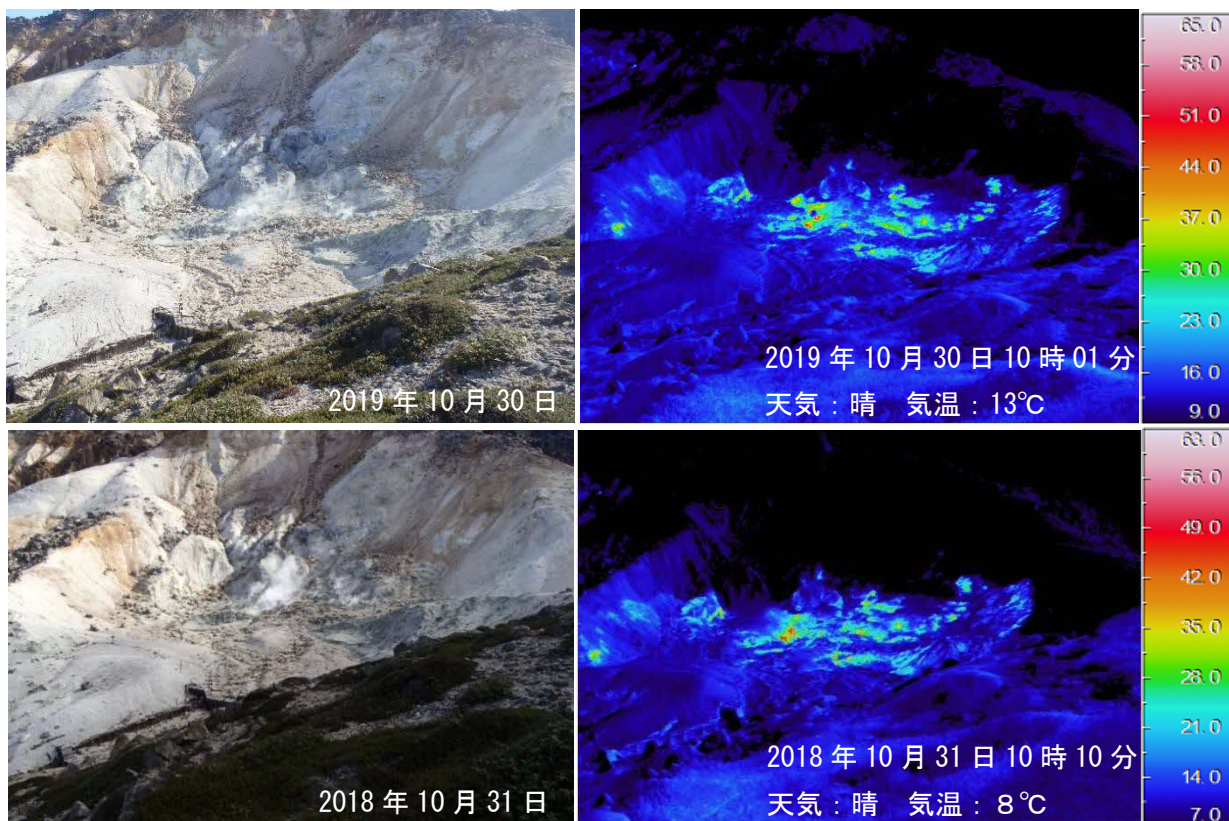


図7 恵山 X火口内の地表面温度分布 西側（図3の赤矢印②）から撮影
・地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

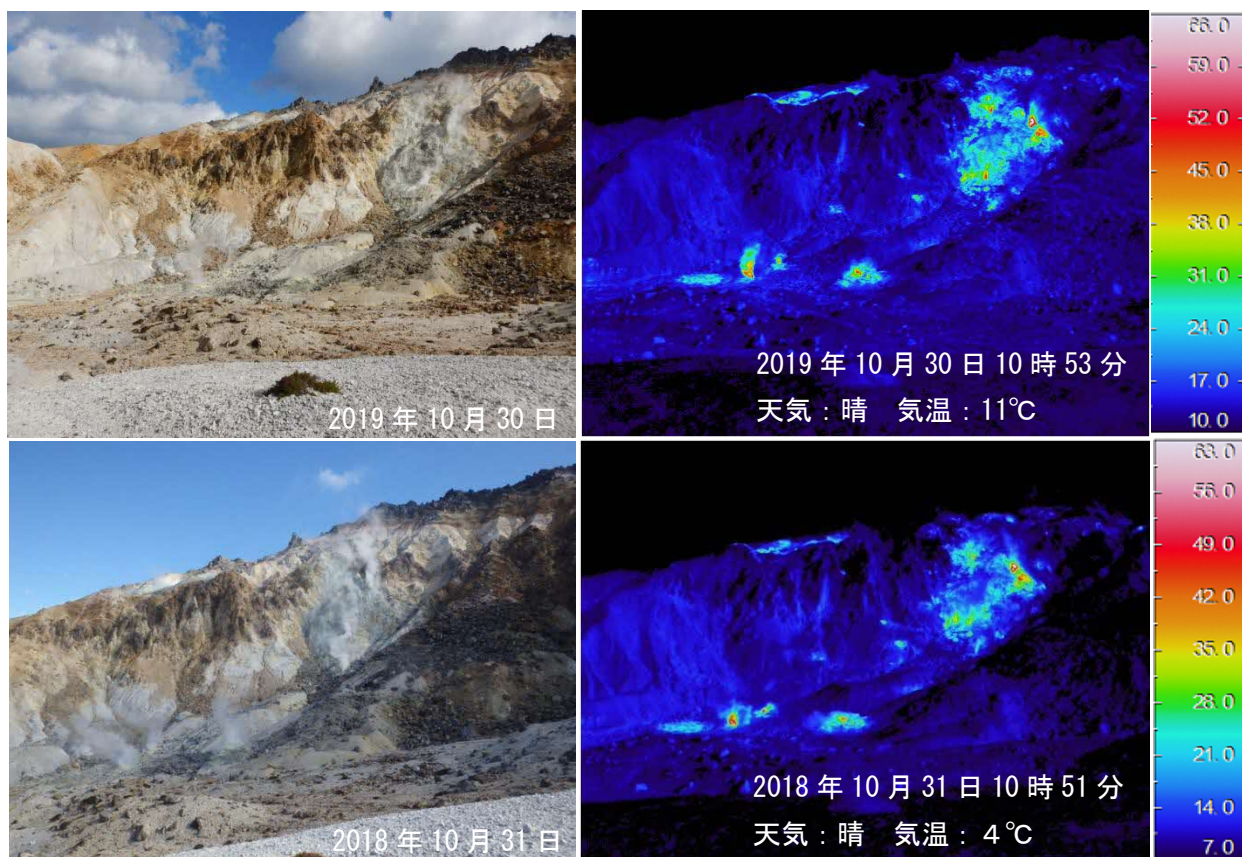


図8 恵山 Y火口内の地表面温度分布 南西側（図3の赤矢印③）から撮影
・地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

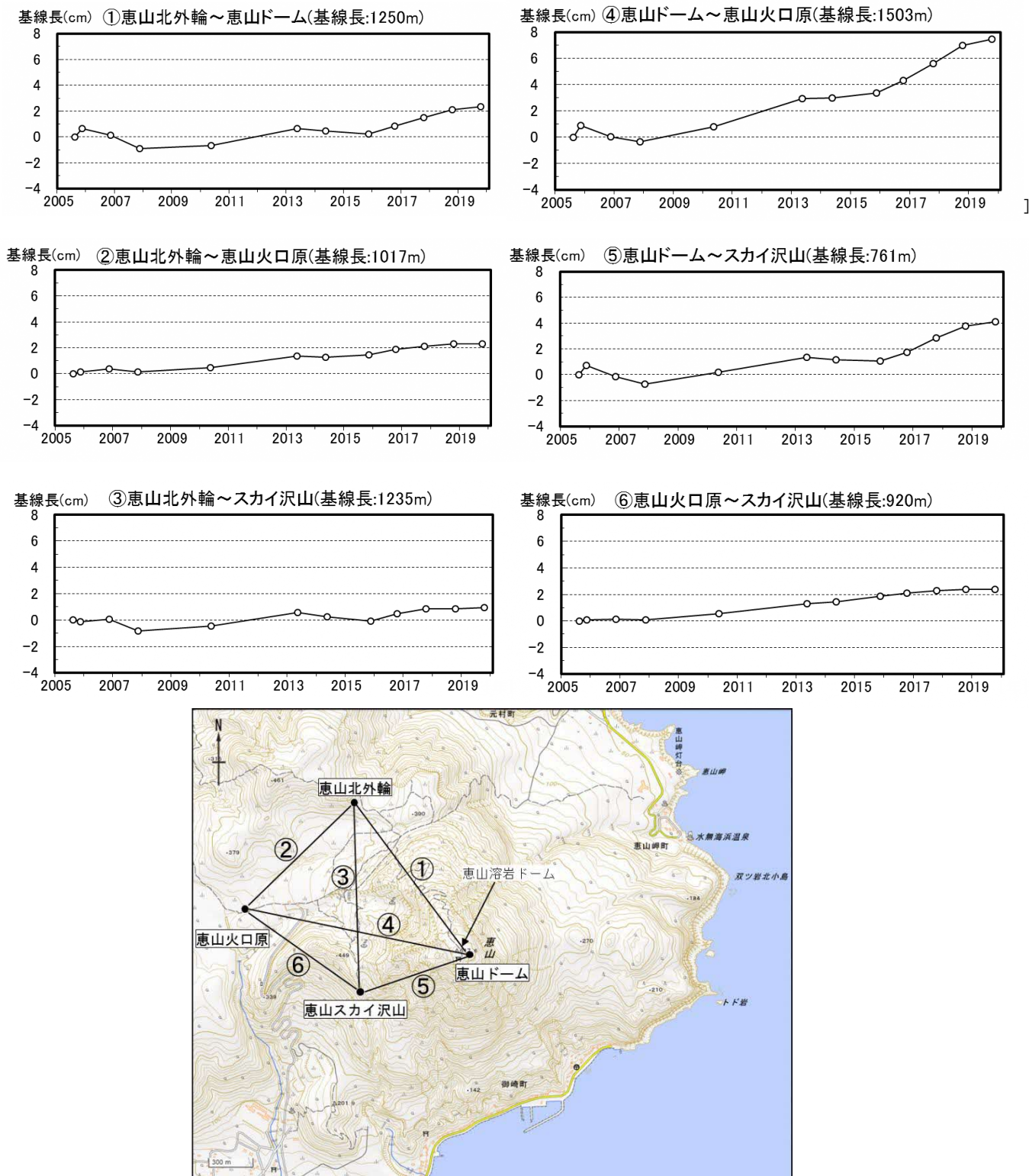


図9 恵山 GNSS 繰り返し観測による基線長変化及び観測点配置図(2005年8月～2019年11月)
GNSS 基線①～⑥は観測点配置図の①～⑥に対応しています。

- ・ 恵山ドームを含む基線で伸びの変化が観測されていますが、火山活動との関連の有無は不明です。

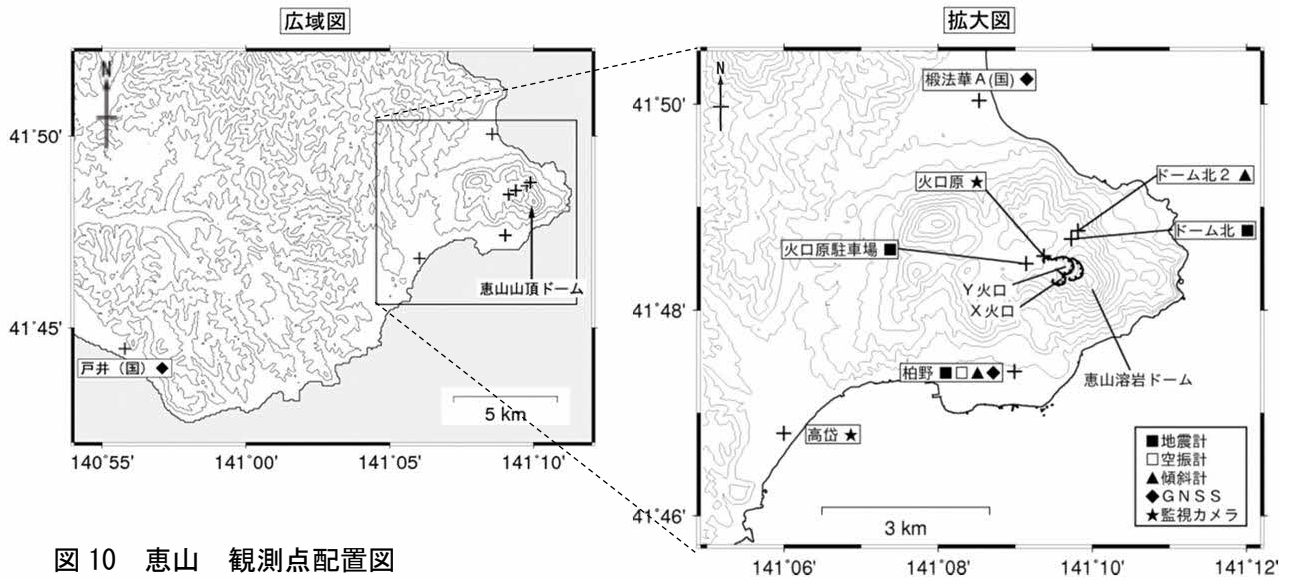


図10 恵山 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院